

・本誌の内容

本誌は日本看護図書館協会の機関誌として、看護およびその関連分野における図書館活動 情報サービスや、読者間のコミュニケーションを図るための記事と研究成果の論文を幅広く掲載する。

原稿は他誌に未発表のものに限り、他誌に投稿中の原稿は受け付けない。

・記事の種類

1．記事内容

本誌に掲載する記事内容は、レビュー、研究論文、事例報告、講座、活動報告、書評、エッセイ、提言などに分類される。

本文の言語は、和文または英文により掲載する。

2．記事の長さ

本誌の原稿1枚は、1行25文字×22行とし、原稿4枚(2200文字)が刷り上がり1ページとなる。

記事の長さは、記事区分により異なり、図表などの基準も決めている。

表1 記事区分と基準

記事区分	原稿枚数	図表	文献	キーワード	抄録
レビュー	16～28	10	自由	5	要
研究論文	16～28	10	20	5	要
事例報告	8～20	5	15	3～5	任意
講座	12～20	5	15	3～5	
特集記事	8～16	3	10	3～5	任意
活動報告	4～12	3	5	3	
書評	4～8	0	0	3	
エッセイ	4～8	0	0	3	
提言	4	0	0	3	

・原稿の書き方

1．文章

文章は、原則として常用漢字と現代かなづかいを用い、文体は、「である調」を基本とする。本文中の数字は、アラビア数字を用いる。

略称・略名は、最初に使用する箇所で正式名称を記載し、以下の省略方法を明記する。

本誌の句読点は「，。 」に統一する。

2．原稿の第1頁

原稿の第1ページは、標題、著者名、著者脚注、抄録、キーワード、本文の順に記載する。

著者脚注には、著者のローマ字(ヘボン式)よみ、所属、住所、E-mail等を記載する。

3．原稿の作成

原稿はワードプロセッサを使用し、ソフトは、Word、一太郎、Excelとする。上記以外のソフトは、テキストファイル形式に変換したものとす。ソフト機能の利用にあたっては、変換ミスを防ぐために、ソフト特有な機能の使用は避ける。

4．原稿の提出

原稿は電子メールに添付し、投稿表紙を添え提出する。(投稿表紙は協会HPよりダウンロードのこと。)

本文は、A4サイズに1行25文字、1ページ22行とし、上下左右にそれぞれ5cmの余白で作成する。

図表は、本文とは別に作成し提出する。

本文には、下部中央に通し番号をつける。

原稿を電子メール以外で提出する場合は、電子メディアと印刷した原稿2部を郵送する。提出した原稿の原本やファイルは、提出者が必ず保存しておく。

・記事の構成

1．標題

標題は、論旨を具体的に表現したものとす。

2．著者

著者は、原稿の執筆内容に責任をもち、かつ適切な必要最小限の人数とする。共同作業による原稿は、本文中に関わった人の氏名を表示することが望ましい。

3．抄録とキーワード

記事区分の「レビュー」、「研究論文」には、本文が和文の場合は英文の抄録、本文が英文の場合は和文の抄録を付ける。抄録の長さは、英文抄録が200語以内、和文抄録は400字以内とする。

キーワードは、すべての記事に付与する。その場合、関連分野で使用される件名を参考にして、和文と英文により付与する。

4. 見出しの番号付

見出し語の入力は、全角文字で入力し太字とする。見出しにおける章・節・項等の番号付については次のように記載し、また展開については項で止める。

章の見出しは、.とローマ数字で番号づけをして1行空ける。

章の中の節は、1. 2. 3. . . .のようにアラビア数字を使用する。

節以下の項は、(1)(2)(3)...のように用いる。

本文中の箇条書きの番号付けは、. . .と丸数字を用いて見出しと区分する。

文章中の外国語やアラビア数字は、すべて半角文字を使用する。

文章中で、イタリック体やゴシック体を指定する箇所には下線を引き、その旨を明示する。

5. 図・写真、表

図および表は、白黒で簡潔に作成し、生データを直接図・表にしたものは避ける。

図や写真は、その下部に図1.と順番に番号を付し的確な標題を与える。また、写真やイラストは図に含める。

表は、その上部に表1.のように順番に番号を付し的確な標題を与える。

本文中には、図・表等を挿入する箇所の指示を入れる。

図表は、原則として1枚の用紙に1件ずつ作成する。

6. 出典の明示

本文中で著者に帰属しない研究成果、数値データ等を利用した場合、また他の文献より図表等を引用する場合は、その帰属先および出典を明記する。なお、必要に応じて事前に著作権者の了解を得る。

. 参考文献

1. 文献の引用

文献は、必要不可欠、印刷されたもの、入手可能なものが望ましい。

文献ページの表記は、以下のとおり最終ページが開始ページと重複する部分は省略する。

[例: 235-239. 235-9.]

2. 引用表示

参考文献は引用順に一連番号を付して配列し、引用箇

所には肩付数字¹⁾、²⁾、³⁾...と記入する。

本文中で引用文献を二度以上引用する場合は、既出の番号を用いる(同上やibidは用いない)。

引用文献は論文末尾に「参考文献」として一覧を引用番号順に記載する。

3. 参考文献の記載例

(1) 雑誌文献の場合

- 1) 小山靖夫.患者と家族への医療情報支援:医療機関の立場での考察.看護と情報,2004;11:31-5.
- 2) 法師人祐子.看護関係雑誌における参考文献記入の正確度.第22回医学図書館員研究会論文集, 1988:125-8.
- 3) Conn VS,Isaramalai SA,Rath S,Jantarakupt P,Wadhawan R,Dash Y.Beyond MEDLINE for literature searches.J Nurs Scholarsh,2003; 35(2):177-82.

(2) 単行本の場合

- 1) 石井京子,多尾清子.ナースのための質問紙調査とデータ分析.第2版.医学書院,2002.
- 2) Greenhalgh T (今西二郎ほか訳).EBMがわかる臨床医学論文の読み方.第2版.金芳堂,2004.
- 3) Saba VK,McCormick KA.Essentials of Nursing Informatics.4th ed.New York; McGraw-Hill,2005.
- 4) 名和小太郎,山本純一編.図書館と著作権.(インターネット時代の図書館情報学叢書;1).日本図書館協会,2005.

(3) オンラインの場合

- 1) 科学技術庁科学技術振興局編.SISTハンドブック科学技術情報流通技術基準2003年版.科学技術振興事業団,2003.<http://www.jst.go.jp/SIST> [accessed 2006-03-31].
- 2) 日本看護図書館協会.
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kantokyo/> [accessed 2006-03-31].

(4) その他

著者が6名以内の場合は全員を記載し、7名以上の時は最初の6名を記載して(他)または(et al.)とする。欧文雑誌名の省略は、Index Medicus等の省略名に準拠し、和雑誌名は省略しない。

4. 脚注

脚注の使用は最小限とし、参考文献とは別にして原稿末尾に一覧とする。

脚注箇所には*¹, *², *³...と記入する。

著者のローマ字綴り, 所属, 住所等の表示は別途の脚注とする。刷り上がりでは, 記事第1ページ下部に表示する。

・原稿の受理

原稿は, 指定された日までに編集委員会に提出する。編集委員会に到着した日を受付日とし, 掲載決定日を受理日とする。本誌には, 受理日を掲載する。

・原稿の採否

編集委員会において掲載の可否を決定する。必要に応じて外部に査読を依頼する。

委員会が必要と認めた場合は, 原稿の改定変更を依頼する。

・校正

校正はゲラ刷り初校を著者に送り, 校正を依頼する。

この際, 原稿にない大幅な修正や加筆は行わない。

著者は初校を受取ってから速やかに校正を行い, 指定された日時までに校正ゲラ刷りを編集委員会, または指定された宛先に返送する。

・抜刷と別刷

著者へは, 抜刷10部を無料贈呈する。ただし, 3ページ以下の記事は原則対象外とする。

その他に別刷を希望する場合, その費用は著者負担とする。

・掲載原稿の取り扱い

掲載された記事の原稿は, 原則として返却しない。ただし, 写真については投稿時に著者から希望があれば後日返却する。

・著作権

本誌に掲載された記事の著作権は, 日本看護図書館協会に帰属する。

本誌に掲載された記事は, 電子媒体への変換による利用についても許諾したものとする。

・原稿の提出先

「看護と情報」編集委員会

日本看護図書館協会ホームページ参照

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kantokyo/>